

令和 2 年度

甲子園大学大学院 博士前期・後期課程

学生募集要項

栄養学研究科 食品栄養学専攻

甲 子 園 大 学

栄養学研究科の概要

本学栄養学部は昭和 42 年創設以来、人の健康保持に欠くことのできない栄養について医学、農学、保健学、家政学の学際分野を統合した体系的な栄養学教育を実施し、建学の精神である「勤勉努力、和衷協同、至誠一貫」に基づいた人間性豊かな有為な人材育成に多くの成果を挙げてきた。

そこで本学では、なお一層の教育・研究の発展並びに高度化し、多様化する現代社会の要請に応えるべく、この栄養学部を基礎として平成 4 年度から栄養学研究科食品栄養学専攻修士課程を置く大学院を開設し、さらに平成 14 年 4 月から博士後期課程を開設し、同時に修士課程は博士前期課程に移行した。両課程では以下に示すように栄養学と食品学の 2 領域を設け、さらにそれぞれの領域に 2 部門を配置している。

栄養学研究科のアドミッションポリシー

【博士前期課程】

栄養学と食品学の 2 領域を設け、栄養学領域は基礎栄養学と臨床的な分野を含む応用栄養学の 2 部門から成り、幅広く現代社会に対応した教育・研究を行う。食品学領域は高度な機器分析を活用する食品分析科学と食糧資源の枯渇に対処する食資源利用学の 2 部門から成り、食品の機能性と安全性と食糧資源の確保を追求する教育・研究を行う。

これら 2 つの領域を基盤として食品栄養学を習得し、専門的な考え方や専門技術を生かして社会に貢献することを目指す人を求める。

【博士後期課程】

基礎栄養学、応用栄養学、食品分析科学、食資源利用学の 4 部門を設ける。博士前期課程で修得した知識、技術および考え方を基盤に各部門においてより深い知識と思考力を身につけ、大学や企業および各種の試験研究機関において活躍できる自立した研究者および教育者を目指す人、さらに地域社会においてリーダーシップを発揮し、健康づくり運動等を積極的に推進できる能力を有し、実践的な指導者を目指す人を求める。

1 募 集 人 員

研 究 科	専 攻	課 程	募集人員
栄養学研究科	食品栄養学専攻	博士前期課程	6 名
		博士後期課程	2 名

2 出 願 資 格

博士前期課程

- (1) 大学を卒業した者及び令和2年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和2年3月修了見込みの者
- (4) 文部科学大臣の指定した者
- (5) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (6) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者及び令和2年3月31日までに22歳に達する者
- (7) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

博士後期課程

- (1) 修士の学位を有する者及び令和2年3月までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和2年3月までに授与される見込みの者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び令和2年3月31日までに24歳に達する者
- (5) 本大学院において、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

注) 上記博士前期課程の(6)又は博士後期課程の(4)により出願を希望する者は、8頁の「出願資格審査の申請」の項を参照のうえ、所定の手続を行うこと。

3 選 抜 方 法

入学者の選抜は、筆記試験、口頭試問及び提出書類を資料とし、これらを総合して行う。

4 試験日及び試験科目

○ 博士前期課程

A方式

年 月 日	区 分	試 験 時 間	備 考
第1次 令和元年 9月 2日 (月)	外 国 語 (英 語)	9:30～11:00	辞書の持ち込みを認める。 (電子辞書の持ち込みは認めない。)
	専門科目	11:10～12:40	専攻を希望する部門から2問、 その他の部門から2問を選択し 計4問を解答する。
第2次 令和2年 2月 3日 (月)	口頭試問	13:30～	入学後専修を希望する部門に関する ことについて行う。

B方式 (社会人対象)

年 月 日	区 分	試 験 時 間	備 考
第1次 令和元年 9月 2日 (月)	外 国 語 (英 語)	9:30～11:00	辞書の持ち込みを認める。 (電子辞書の持ち込みは認めない。)
	論 文 (小論文)	11:10～12:10	
第2次 令和2年 2月 3日 (月)	口頭試問	13:00～	入学後専修を希望する部門に関する ことについて行う。

【注】 B方式における社会人とは、入学時において、大学卒業後3年以上の職歴（主婦を含む。）を持つ25歳以上の者とする。

○ 博士後期課程 (A方式・B方式)

年 月 日	区 分	試験時間	備 考
第1次 令和元年 9月 2日 (月)	外 国 語 (英 語)	9:30～11:00	辞書の持ち込みを認める。 (電子辞書の持ち込みは認めない。) 内部進学者は免除する。
	口頭試問	13:00～	入学後専修を希望する部門に関する ことについて行う。
第2次 令和2年 2月 3日 (月)			

【注】 B方式における社会人とは、入学時において、修士課程修了（修士の学位取得）後3年以上の職歴（主婦を含む。）を持つ27歳以上の者とする。

5 試 験 場

甲子園大学 兵庫県宝塚市紅葉ガ丘10番1号

6 出願受付期間

第1次	令和元年8月16日(金)～8月29日(木)
第2次	令和2年1月10日(金)～1月23日(木)

7 出 願 手 続

(1) 提出書類等

書 類 等	備 考
入学志願票・写真票 受験票・副票	① 本学所定の用紙(裏面を含む)に本人が必要事項を記入したもの ② 写真(出願前3カ月以内に撮影した上半身、無帽正面向きで、縦5cm、横4cmのもの)を写真票の所定欄に貼り付けること
成績証明書 卒業(見込み)証明書 修了(見込み)証明書	① 博士前期課程志願者は、出身大学の成績証明書及び卒業(見込み)証明書(出身大学長又は学部長が証明し、これを厳封したもの) ② 博士後期課程志願者は、出身大学の学部及び大学院の成績証明書並びに大学院修士課程(博士前期課程)修了(見込み)証明書(出身大学長又は学部長、研究科長が証明し、これを厳封したもの)
修士学位論文等	博士後期課程志願者は、修士学位論文の写し及び修士論文の要旨(2,000字程度) 修士の学位を取得見込みの者は、これに代え研究経過の概要(2,000字程度)
研究希望等調書 研究計画書	本学所定の用紙に本人が必要事項を記入したもの 博士前期課程志願者…「研究希望等調書」 博士後期課程志願者…「研究計画書」
受験承諾書	他の大学院在学者又は官公庁、会社等に在職中の者は、本学所定の用紙に所属研究科長又は所属機関の長が承諾したもの
登録原票記載事項証明書	日本国に居住している外国人は、市区町村長の交付したもの
入学検定料	30,000円(出願を郵送で提出する場合は、郵便普通為替とし、受取人指定欄及び住所欄は、記入しないこと)
受験票返送用封筒	出願を郵送で提出する場合は、定形長3号(12cm×23.5cm)の封筒に書留速達郵便料 792円分の切手を貼付し、受取人の住所、氏名を明記したもの ※令和元年度中に消費税率の改定が行われた場合は、改定後の税率に即した速達郵便料の金額に見合う切手を貼付してください

注) 1 博士前期課程の出願資格(2)により出願する者

独立行政法人大学評価・学位授与機構より学位を授与された者は、同機構が証明した学位授与証明書(授与見込みの者は、学位授与申請受理証明書)並びに最終学校及び科目等履修に関する学業成績証明書等を提出すること。

2 提出書類は、黒インク又は黒ボールペンで丁寧に記入すること。

3 提出された書類は、入学者選抜に関する目的にのみ利用し、その他の目的には使用しません。

(2) 出願受付

場 所 甲子園大学大学院事務室
〒665-0006 兵庫県宝塚市紅葉ガ丘 10 番 1 号
時 間 平 日 午前 9 時 30 分～午後 4 時

(3) 出願時の注意

- ① 出願にあたっては、志望する専門科目の研究内容、社会人（有職者）にあつては授業科目の履修方法等に関する照会は、下記に問い合わせること。

なお、この問い合わせは出願開始日より少なくとも1カ月以上前に行うこと。

問い合わせ先 大学院事務室 0797-87-5111（内線610）

- ② 郵送により出願する場合は書留速達郵便とし、封筒の表に「大学院栄養学研究科出願書類」と朱書きし、上記あてに締切日（当日消印有効）までに送付すること。
- ③ 出願期間内に所定の書類が完備しない出願は受理しない。また、いったん提出した書類及び入学検定料は、事由を問わず返還しない。
- ④ 本学栄養学部以外の出身者は、指導を希望する教員と出願前に研究計画等について協議しておくこと。

8 合 格 発 表

第1次	令和元年9月17日(火) 午前10時	本学内に掲示するとともに合否にかかわらず全員に通知する。 電話等による問い合わせには、応じない。
第2次	令和2年2月18日(火) 午前10時	

9 入 学 手 続

- (1) 入学試験合格者は、次表の入学手続期限までに入学手続書類を提出すること。
入学金は、次項「10 入学金及び授業料等」により、納入期限までに全額を納入すること。
- (2) 上記入学手続者には、入学許可書を送付する。
- (3) 所定の期限までに入学手続を完了しない者には、入学を許可しない。
- (4) 入学手続者のうち卒業（修了）見込み又は学位授与見込みで受験した者は、令和2年3月末日までに卒業証明書（修了証明書）又は学位授与証明書を提出すること。この証明書の提出がない場合は、入学許可を取り消す。
- (5) 入学許可書を受領した者は、次表の授業料等納入期間内に授業料及びその他の納入金を納入すること。（次項「10 入学金及び授業料等」を参照のこと）
この期間内に納入のない場合は入学許可を取り消す。
- (6) 受理した入学手続書類及び入学金、授業料等については、事由を問わず返還しない。ただし、授業料等の返還希望を申し出て、次表の提出期限までに、本学所定の入学辞退届を提出した者に限り、入学金を除く授業料等を返還する。

区 分	入学手続期限	授業料等納入期間	入学辞退届提出期限
第1次試験合格者	令和元年 10月8日(火)	令和2年 1月 6日(月) ∪ 1月17日(金)	令和2年 3月31日(火) 15時
第2次試験合格者	令和2年 3月3日(火)	令和2年 2月25日(火) ∪ 3月 3日(火)	令和2年 3月31日(火) 15時

10 入学金及び授業料等

(1) 入学金

入学金は、下記の金額を納入期限までに一括して納入してください。

博士前期課程 200,000円

博士後期課程 250,000円

区 分	納 入 期 限
第1次試験合格者	令和元年10月8日(火)
第2次試験合格者	令和2年 3月3日(火)

(2) 授業料等

授業料、実験実習費、施設設備費は、分割納入制を採用しておりますが、納入者の希望により前期納入金、後期納入金ごとに一括納入もできます。

次表の金額を納入期限までに納入してください。

◎ 分割納入（博士前期課程・博士後期課程）

区 分		授 業 料	実験実習費	施設設備費	計	納 入 期 限
前 期 納入金	一 次 納入金	117,000	30,000	18,500	165,500	第1次試験合格者 令和2年 1月17日（金） 第2次試験合格者 令和2年 3月 3日（火）
	二 次 納入金	117,000	30,000	18,500	165,500	令和2年 7月20日（月）
後 期 納入金	一 次 納入金	117,000	30,000	18,500	165,500	令和2年10月20日（火）
	二 次 納入金	117,000	30,000	18,500	165,500	令和3年 1月20日（水）

◎ 一括納入（博士前期課程・博士後期課程）

区 分	授 業 料	実験実習費	施設設備費	計	納 入 期 限
前期納入金	234,000	60,000	37,000	331,000	第1次試験合格者 令和2年 1月17日（金） 第2次試験合格者 令和2年 3月 3日（火）
後期納入金	234,000	60,000	37,000	331,000	令和2年10月20日（火）

(3) その他の納入金

入学金、授業料等のほかに、財団法人日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険料等を納入していただきます。詳しくは、合格通知書送付時にお知らせします。

11 奨学金制度

甲子園大学奨学金（仮称）並びに独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度があります。

12 長期履修学生制度

職業を有しておられる社会人の方々の学習機会を拡大する観点から、甲子園大学大学院では2015（平成27）年度から「長期履修学生制度」を導入しています。

この制度は、職業を有している等の事情で、通常の修業年限（博士前期課程は2年、博士後期課程は3年）で修了することが困難な方が標準修業年限を超える履修期間を設定し、計画的に課程を修了するためのものです。

詳細は大学院事務室までお問い合わせください。

出 願 資 格 審 査 の 申 請

博士前期課程の出願資格(6)又は博士後期課程の出願資格(4)により出願を希望する者は、出願前に資格審査を行うので、資格審査申請書類を大学院事務室へ請求すること。

なお、郵便で請求するときは、返信用封筒（郵送料120円分の切手を貼付し、受取人の住所、氏名を明記したもの）を同封すること。また、大学あての封筒の表に「大学院出願資格審査申請書類請求」と朱書きすること。

(1) 審査方法

書 類 審 査

(2) 提出書類

- ① 出願資格審査申請書（本学所定の用紙）
- ② 履 歴 書（本学所定の用紙）
- ③ 最終学歴の卒業証明書
- ④ 最終学歴の成績証明書
- ⑤ 学習歴、教育歴、実務・活動経験歴に関する申立書（本学所定の用紙）及びそれらを証明する資料
- ⑥ 研究希望等調書（本学所定の用紙）

(3) 申請期間

第1次 令和元年 7月16日（火）～19日（金）

第2次 令和元年 11月11日（月）～14日（木）

(4) 申請受付

場 所 甲子園大学大学院事務室

〒665-0006 兵庫県宝塚市紅葉ガ丘 10 番 1 号

時 間 平 日 午前9時30分～午後4時

郵送により申請する場合は書留速達郵便とし、封筒の表に「大学院出願資格審査書類」と朱書きし、上記あてに締切日（当日消印有効）までに送付すること。

(5) 審査結果通知

第1次 令和元年 8月2日（金）

第2次 令和元年 11月29日（金）

出願資格審査の結果は、申請者に対し、上記期日までに文書により通知する。

受 験 上 の 注 意

筆 記 試 験

- ① 受験者は、各自が受験する試験科目の試験開始時刻の30分前までに、大学院事務室で試験室を確認のうえ、当該試験室に入室してください。
- ② 試験室に入室後は、座席表を確認のうえ、各自の受験番号の示されている座席に着席し、受験票を机の上に置いてください。
- ③ 受験票は必ず持参してください。万一紛失又は忘れた場合は、試験開始までに大学院事務室まで申し出て、仮受験票の交付を受けてください。
- ④ 試験開始の合図があるまでは、配布された問題紙、解答用紙に手を触れないでください。
- ⑤ 配布された問題紙、解答用紙には、必ず受験番号を記入してください。氏名は記入しないでください。
- ⑥ 試験中に机の上に置くことができるものは、受験票、筆記具、消しゴム及び計時用の時計のみとします。その他の手荷物はカバン等に入れ、各自の足もとに置いてください。
- ⑦ 携帯電話を持参する者は、試験終了まで電源を切っておいてください。
- ⑧ 試験開始後30分以上遅刻した場合は、受験することはできません。
- ⑨ 試験終了の合図とともに答案の作成を中止し、着席したまま監督者の指示に従ってください。

口 頭 試 問

- ① 受験票は必ず持参してください。万一紛失又は忘れた場合は、試問開始までに大学院事務室まで申し出て、仮受験票の交付を受けてください。
- ② 口頭試問開始時刻後30分以上遅刻した場合は、受験することはできません。
- ③ 昼食及び湯茶の必要な者は、各自持参してください。

栄養学研究科食品栄養学専攻（博士前期課程）の教育課程

令和元年6月現在

授 業 科 目		単 位 数		担 当 教 員
		必 修	選 択	
講 義 科 目	基礎栄養学特論Ⅰ		2	特任教授 渡 部 紀久子
	基礎栄養学特論Ⅱ		2	教 授 佐々木 裕 子 教 授 亀 尾 聡 美
	基礎栄養学特論Ⅲ		2	教 授 末 武 勲
	応用栄養学特論Ⅰ		2	教 授 八 木 典 子
	応用栄養学特論Ⅱ		2	教 授 垠 貴 司
	応用栄養学特論Ⅲ		2	准教授 下 出 眞知子
	食品分析科学特論Ⅰ		2	教 授 近 藤 仁 司
	食品分析科学特論Ⅱ		2	准教授 谷 澤 容 子 准教授 佐 藤 典 子
	食品分析科学特論Ⅲ		2	教 授 大 橋 哲 也
	食資源利用学特論Ⅰ		2	教 授 西 瀬 弘
	食資源利用学特論Ⅱ		2	教 授 山 下 憲 司 准教授 林 晃 之
	食資源利用学特論Ⅲ		2	教 授 鎌 田 洋 一
演 習 ・ 実 験 科 目	食品栄養学演習Ⅰ		1	特任教授 渡 部 紀久子 准教授 佐 藤 典 子
	食品栄養学演習Ⅱ		1	教 授 佐々木 裕 子 准教授 谷 澤 容 子
	食品栄養学演習Ⅲ		1	教 授 垠 貴 司 准教授 下 出 眞知子
	食品栄養学実験Ⅰ		1	教 授 山 下 憲 司 教 授 大 橋 哲 也
	食品栄養学実験Ⅱ		1	教 授 末 武 勲 教 授 鎌 田 洋 一 准教授 林 晃 之
	食品栄養学実験Ⅲ		1	教 授 近 藤 仁 司 教 授 西 瀬 弘
特 別 講 義		2		教 授 八 木 典 子
特 別 研 究		16		各 指 導 教 員

- 1 必修 18 単位、講義科目 10 単位、演習・実験科目 2 単位を含み 30 単位以上修得すること。

栄養学研究科食品栄養学専攻（博士後期課程）の教育課程

令和元年6月現在

領域	部 門	授 業 科 目	単 位 数	担 当 教 員
			必 修	
栄 養 学	基 礎 栄 養 学	基礎栄養学研究Ⅰ	8	特任教授 渡 部 紀久子
		基礎栄養学研究Ⅱ		教 授 末 武 勲
		基礎栄養学研究Ⅲ		教 授 亀 尾 聡 美
		基礎栄養学研究Ⅳ		教 授 佐々木 裕 子
		基礎栄養学研究Ⅴ		准教授 佐 藤 典 子
	応 用 栄 養 学	応用栄養学研究Ⅰ		教 授 八 木 典 子
		応用栄養学研究Ⅱ		教 授 塚 貴 司
		応用栄養学研究Ⅲ		准教授 下 出 眞知子
食 品 学	食 品 分 析 学	食品分析科学研究Ⅰ		教 授 山 下 憲 司
		食品分析科学研究Ⅱ		教 授 近 藤 仁 司
		食品分析科学研究Ⅲ		教 授 大 橋 哲 也
	食 資 源 利 用 学	食資源利用学研究Ⅰ		教 授 西 瀬 弘
		食資源利用学研究Ⅱ		教 授 鎌 田 洋 一
		食資源利用学研究Ⅲ		准教授 林 晃 之

- 1 研究科目に応じた所定の授業科目について、1科目8単位を修得すること。

大学院担当教員の主な研究内容

博士前期課程・後期課程
令和元年6月現在

部門	担 当 教 員	研 究 分 野	主 な 研 究 内 容
基礎栄養学	教 授 博士（環境科学） 亀 尾 聡 美	公衆衛生学 環境保健学	必須微量元素と健康に関する研究 客観的疲労評価と微量元素欠乏・食生活状況との関連 金属結合タンパク質の生体防御としての役割
	教 授 博士（家政学）・管理栄養士 佐々木 裕 子	基礎栄養学	発酵食品における生理活性物質の検索と機能性食品の開発
	教 授 博士（理学） 末 武 勲	生化学	食品由来成分によるクロマチン構造変化 食品とエピジェネティック制御機構の関連性
	特任教授 医学博士 渡 部 紀久子	脂質生化学	必須脂肪酸の生体内での役割に関する研究 不飽和脂肪酸由来の局所ホルモンプロスタグランジンを合成する酵素の生理的・病態生理的役割に関する研究
応用栄養学	教 授 医学博士・管理栄養士 八 木 典 子	健康管理学 老年栄養学	老化と栄養に関する研究 ストレス負荷が老化に及ぼす影響 運動と栄養摂取条件が生体に及ぼす影響
	教 授 医学博士・医師 垓 貴 司	実験病理学	天然食品産物を用いた癌の予防/治療に関する基礎的研究
	准 教 授 博士（心身健康科学） 下 出 眞知子	臨床栄養学	保存期腎不全における低たんぱく食が心身に及ぼす影響に関する研究 透析患者の食事療法と QOL との関連の研究

大学院担当教員の主な研究内容

博士前期課程・後期課程

令和元年6月現在

部門	担 当 教 員	研 究 分 野	主 な 研 究 内 容
食 品 分 析 科 学	教 授 博士(工学) 大 橋 哲 也	食品官能評価試験 食品加工学	食品を中心とした官能評価試験を実施し、結果の解析から得られる新しい知見(発見)を報告する。
	教 授 農学博士 近 藤 仁 司	酵素利用学 生化学	酵素を利用した食品加工技術に関する調査研究 生体触媒利用による食品分析を中心とした分析技術に関する研究
	准 教 授 博士(学術) 佐 藤 典 子	食品学	食品中の難消化性ペプチドのタンパク質一次構造及び難消化性成分の機能に関する研究 未利用資源の食生活における活用に関する研究
	准 教 授 家政学修士 谷 澤 容 子	調理科学	種々の微細化農産食品の調理特性 西欧・アジアの日常食に関する実態調査
食 資 源 利 用 学	教 授 農学博士 鎌 田 洋 一	食品衛生学 環境微生物学	ウェルシュ菌下痢毒素の分子構造と作用機構の解析 食中毒誘発細菌、細菌毒素、寄生虫の検出法の解析と食中毒診断 カビおよび食物間の共通アレルゲンの同定と性状分析
	教 授 農学博士 西 瀬 弘	応用微生物学 応用酵素学	微生物酵素の応用及び分子生物学的研究 微生物による光学活性体や有機酸などの有用物質生産 乳酸菌の応用及び生理学的研究
	教 授 農学博士 山 下 憲 司	食品製造学	ビフィズス菌など腸内細菌と免疫環境調節機能を有する食品素材を組み合わせた機能性食品の開発研究
	准 教 授 博士(理学) 林 晃 之	植物機能学 細胞生物学	作物の収量や品種、成分及び各種耐性に関わる遺伝子やタンパク質の働きに関する研究

・ 問 い 合 わ せ 先 ・

甲子園大学 大学院事務室

〒665-0006 宝塚市紅葉ガ丘10番1号

TEL 0797-87-5111

FAX 0797-87-5666

URL <http://www.koshien.ac.jp>